

農事組合法人アグリフォー太田(秋田県大仙市) ～ 新技術による低コスト化と周年農業を見据えた高収益作物の導入 ～

【ポイント】

- ① 水稲と大豆のブロックローテーションによる農地の効率的かつ有効的な活用。
- ② ドローンの活用や水稲の密苗導入による低コスト化・低省力化に向けた取組を積極的に実施。
- ③ 水稲大豆の大規模農業が可能となったことにより、新たにダリア、いちごを栽培し始め、周年での複合経営に取り組む。

取組の経緯

高齢化等による地域農業への危機感から、平成19年度に農事組合法人「アグリフォー太田」を設立。
未整備区画のほ場での営農に苦慮し、ほ場整備事業の必要性を痛感。 本法人が率先して関係者と調整を行った結果、地域の合意形成が図られ、平成23年度から平成30年度まで事業を実施。
事業の実施により、区画を1haに拡大。農地中間管理事業を活用し、事業地区内の49.3ha(約95%)の農地を本法人に集積・集約化。

取組の内容

- ① 大区画化・汎用化したほ場で水稲・大豆のブロックローテーション
ほ場整備事業により、大区画化、汎用化が実現し、大規模農業が可能となった。
水稲と大豆を3年間のブロックローテーションを実施し、農地の効率的かつ有効的な活用を行っている。
- ② ドローンの活用や水稲の密苗導入による低コスト化の取組
農薬散布用のドローンの活用や湛水直播栽培や密苗の一部導入等により低コスト化・省力化を図っている。
令和2年度からは水稲の全面積について「密苗」を導入しており、更なる低コスト化と省力化を図っている。
- ③ ダリアの栽培、首都圏への出荷を確立
首都圏への販売実績が伸びているダリアを、ビニールハウス2棟と露地で「花火ダリア」「NAMAHAダリア」等の大仙市・秋田県のオリジナル品種を主力品種として栽培し、JAを通じて大田市場へ出荷している。
- ④ 冬期間のいちご栽培による構成員の周年雇用を実現
ビニールハウス5棟で冬期間のいちごの高設栽培を実施。12月から6月にかけて出荷するなど法人経営の大きな課題でもある構成員の周年雇用を可能とし、新規就農者2名を雇用している。
なお、出荷は法人の直営販売が中心で、法人自ら積極的に販路を開拓しており、近隣のパティシエと連携しケーキの材料提供等、地域の賑わいづくりの一翼も担っている。



組織の概要

- ・代表者: 小松 一男
- ・出資者数: 4名
- ・経営面積: 65.3ha
- ・主要作物: 水稲26.0ha, 大豆38.2ha, ビニールハウス(いちご5棟、ダリア2棟)

農地集積加速化基盤整備事業

- ・地区名: 東今泉
- ・工期: H23～H30
- ・受益面積: 51.8ha
- ・主要工事: 区画整理等



ドローンによる農薬散布



いちごの高設栽培

	取組前 (H22)	取組後 (H30)		取組前 (H22)	取組後 (R元)		取組前 (H22)	取組後 (R元)
区画形状	10a	1ha	農地集積率	20%	95%	出荷額	9.9 百万円	48.8 百万円
ほ場筆数	422筆	184筆						